

<第58回調査>

2014年03月24日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2014年03月11日(火)13:00~2014年03月18日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。

今回の有効回答数は907件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

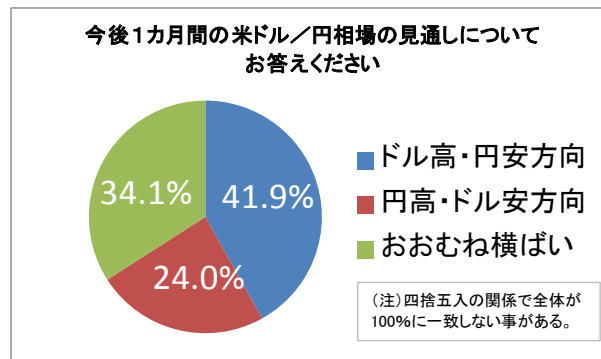
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第58回調査結果略報：投資家の「見通し」が分散する傾向に】

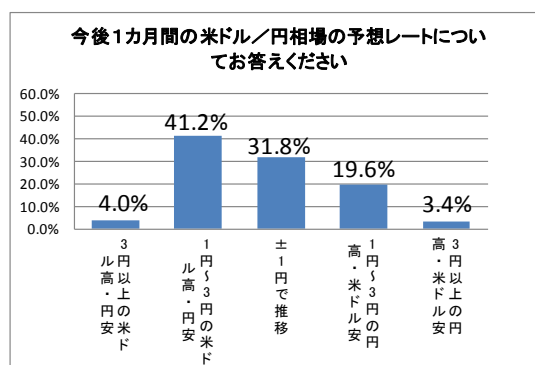
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が41.9%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は24.0%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+17.9ポイントとなり、9カ月連続でプラスを維持したものの、プラス幅は前回の+19.2%ポイントから縮小した。調査期間中の米ドル/円相場は103円40銭台から円買いが強まり、101円台前半まで下落した。月初に落ち着きを見せたウクライナ情勢への不安が再び高まったことでリスク回避ムードが拡がり、米ドル/円には下落圧力が掛かった。ただ、FX投資家層の見通しを見ると、予想DI自体は低下したものの、これは「おおむね横ばい(前月：35.8%)」の層が一部「円高・ドル安方向(同：22.5%)」に見方をシフトしたのみで、「ドル高・円安予想(前月：41.7%)」の回答割合はほとんど変化がない。ウクライナ情勢がひと段落すれば、ドル/円は上昇すると見る向きが多い様子が見受けられる。※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が41.2%と最も多く、「±1円で推移」が31.8%と続いた。「1円～3円の円高・ドル安」は19.6%、「3円以上の米ドル高・円安」は4.0%、「3円以上の円高・米ドル安」は3.4%という結果になった。ドル強気・円弱気姿勢が示された問1の結果と整合的と言える。ただし、「3円以上の円高・米ドル安」の回答割合は前月(7.1%)から低下し、「1円～3円の円高・ドル安(前月：19.2%)」と「3円以上の円高・米ドル安(同：2.3%)」の回答割合は上昇している点から、「米ドル高・円安」で見ている層は以前よりもゆっくりとしたペースでの動きを見ている一方、「円高・米ドル安」で見ている層は、以前よりも速いペースでの動きを見ている可能性がある。なお、「1円～3円の米ドル高・円安」と「±1円で推移」の合計で7割以上の回答を集めた点と、調査期間中の米ドル/円相場の平均(終値ベース)から推測されるFX投資家の今後1カ月の予想レンジは、およそ101円～105円となる。

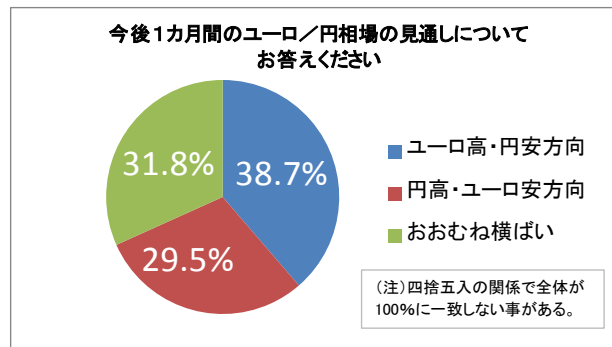


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

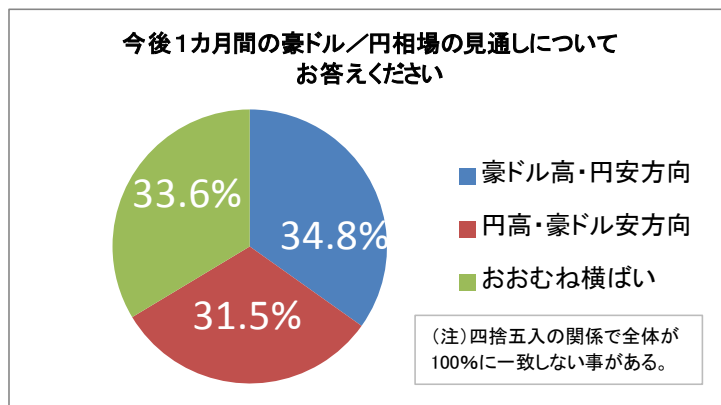
「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が38.7%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が29.5%となった。この結果「ユーロ円予想DIは+9.2%ポイント」となり、前月(+7.1%ポイント)から上昇した。ただし、引き続きプラス幅は一桁台に留まった。調査期間中のユーロ/円相場は143円台前半から140円台前半へ下落した。こうした展開にもかかわらず、ユーロ/円予想DIはプラス幅を拡大させている。ただ、内訳をみると、「ユーロ高・円安方向(前月:35.3%)」と「円高・ユーロ安方向(同:28.2%)」の双方が回答割合を増やしている。FX投資家層の中で、ウクライナ情勢への見方が、楽観・悲観でよりはっきりと分かれた様子が見受けられる。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が34.8%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は31.5%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+3.3%ポイントとプラス幅を縮小。強気・弱気予想がほとんど拮抗している状態となった。調査期間中の豪ドル/円相場は、91円台前半から93円台前半のレンジで上下するなど方向感に欠ける展開であった。豪準備銀行(RBA)による追加利下げ観測は後退しつつあるが、RBAは豪ドル高牽制の姿勢を示している上、ウクライナ情勢への不安から、豪ドル高・円安も進みにくい状態。他の通貨ペアと同様、FX投資家層の見方は分かれている。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

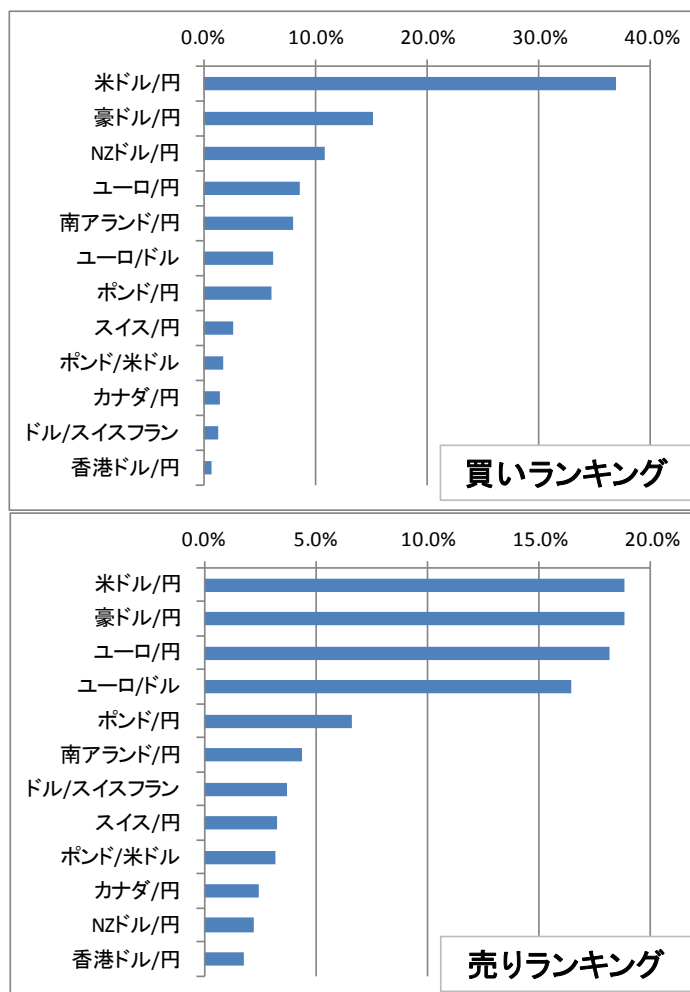


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(36.9%)、2位豪ドル/円(15.2%)、3位NZドル/円(10.8%)、4位ユーロ/円(8.6%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位は米ドル/円(18.9%)と豪ドル/円(18.9%)が同率、3位ユーロ/円(18.2%)、4位ユーロ/ドル(16.4%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円が17カ月連続でトップの座をキープしたが、回答割合は前月の40.1%から低下した。また、2位の豪ドル/円も前月(18.7%)から回答割合を低下させており、注目されている通貨ペアがその他通貨に分散する傾向が見られた。ウクライナ情勢の緊迫化で、人気の米ドル/円、豪ドル/円がともに頭が重い状態で、他の通貨ペアに買い妙味を見出そうとする動きが出ている可能性がある。一方、「売り」で注目のランキングについては、上位4通貨ペアの回答がほぼ拮抗するという、かなり珍しい結果になった。ウクライナ情勢の緊迫化で、分かりやすく米ドル/円に注目するのか、世界経済への下押し懸念から資源国通貨の売りに着目するのか、それともウクライナ経由で天然ガスを輸入する欧州への逆風を重くみてユーロ売りを見通すのか、という形で、見方が分散したものと見られる。

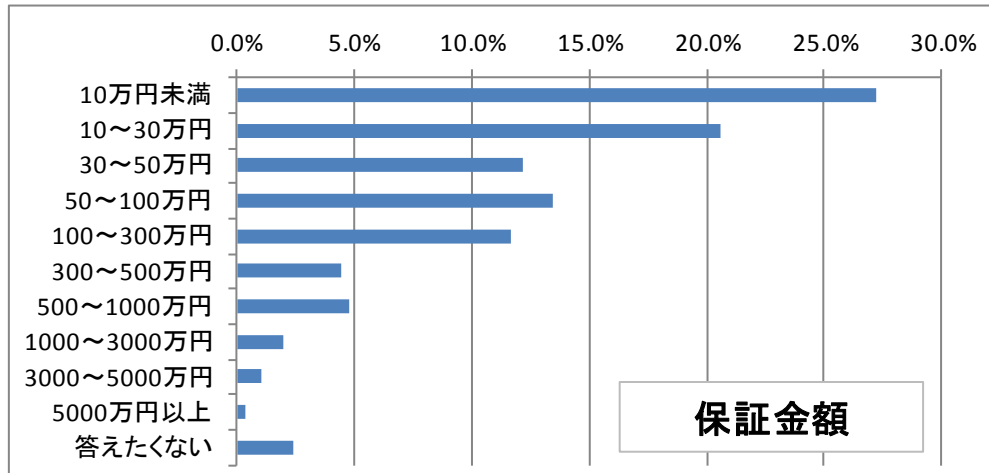


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

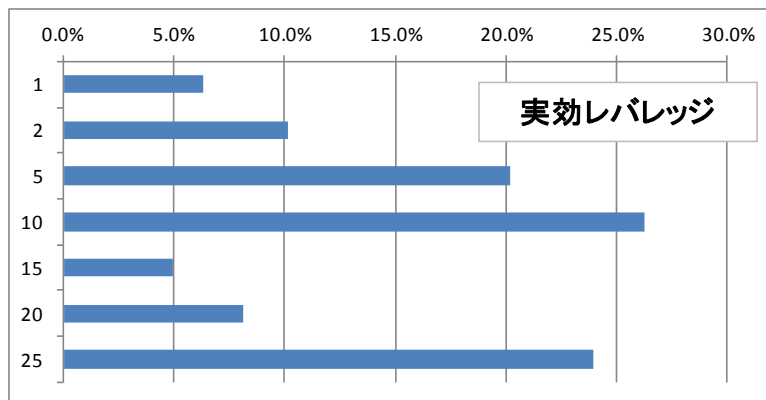
問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が27.2%と最も多く、以下「10～30万円(20.6%)」、「50～100万円(13.5%)」、「30～50万円(12.1%)」、「100～300万円(11.7%)」、と続いた。100万円以下の合算割合が73.4%と、前月(70.5%)から上昇している。FX投資家の取引保証金は、相場環境などに左右されて増減する事は少ない傾向がこれまででは見られていたが、1月下旬の新興国不安に続き、ウクライナ情勢に対する不安が根強い中で、リスクを絞るために取引保証金を限定しようとする動きが出ている可能性がある。



問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「10倍」と答えた割合が26.3%と最も多く、「25倍」が24.0%、「5倍」が20.2%と続き、以下、「2倍」が10.2%、「20倍」が8.1%となった。レバレッジに関する質問の内容を「主に活用するレバレッジ」という回答者の主観に基づくものから「実効レバレッジ」という客観的なものに変更して今回が5回目の調査となるが、過去4回はいずれも「25倍」と答えた割合が30%弱と高い水準だったが、今回は初めて10倍が逆転した。1月の新興国不安に続き、ウクライナ情勢、中国の景気後退不安など、先行きについて不透明感が増している中で、FX投資家層はレバレッジを高くしないように配慮している可能性がある。

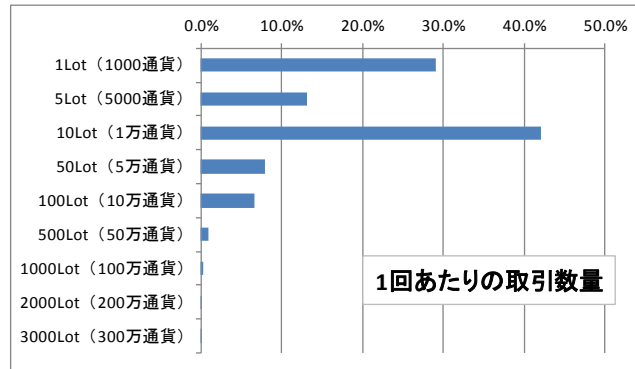


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

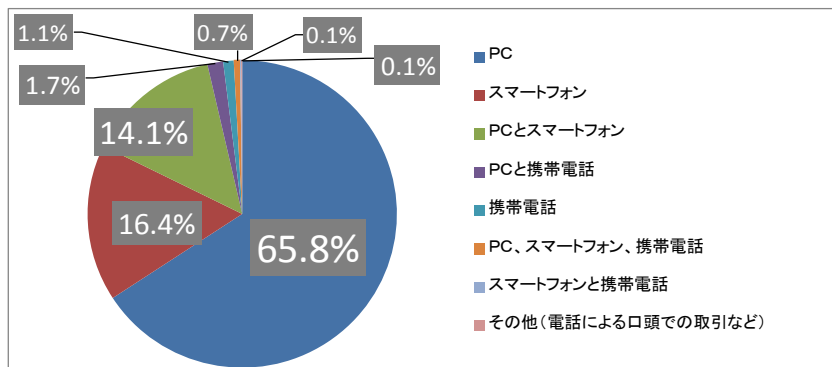
問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot(1万通貨)」と答えた割合が43.4%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が26.8%、「5Lot(5000通貨)」が13.9%、「50Lot(5万通貨)」が8.3%、「100Lot(10万通貨)」が6.0%と続いた。この質問も、今回が5回目となるが、いずれの回も10Lotが4割を超えており、1Lotが3割前後という結果で目立った変化は見られない。1Lot(1000通貨)や10Lot(1万通貨)は、比較的、円貨換算が容易でポジション管理も容易なため選ばれやすいのだろう。同じキリの良い100Lot(10万通貨)の割合が低いのは、米ドル/円の取引なら10万ドル≒1020万円という比較的高額の取引となってしまう、最低でも約40万円以上の保証金が必要となる事がネックになっていると見られる。



問9: FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として「FX投資を行う中で、主にどのような投資環境でトレードをしていますか。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「PC」とした割合が65.8%と最も多く、以下「スマートフォン(16.4%)」、「PCとスマートフォン(14.1%)」、「PCと携帯電話(1.7%)」と続いた。前回、2012年3月にこの調査を行った際にはPCのみの利用者は74.2%であり、今回はここが大きく低下した。一方で、スマートフォンを取引に利用している層は31.3%に達している。前回調査では「スマートフォン(前回:8.0%)」、「PCとスマートフォン(同:9.8%)」、「PC、スマートフォン、携帯電話(同:0.9%)」で計18.7%だったところから大幅に伸びていることが分かる。また、携帯端末を利用する層のほとんどがスマートフォンを利用している。今年1月発表の民間調査(博報堂DYホールディングス、2013年11月調査)では、スマートフォンの全国普及率は55.2%との結果が出ている。「PCのみ」の取引層のスマートフォン普及率が同程度と仮定し、スマートフォンで取引するFX投資家の割合を足すと、一般よりもスマートフォン普及率はかなり高いと言える。FX投資家層は最先端の機器を一般より積極的に導入する傾向にあり、それを取引に活かしているようだ。

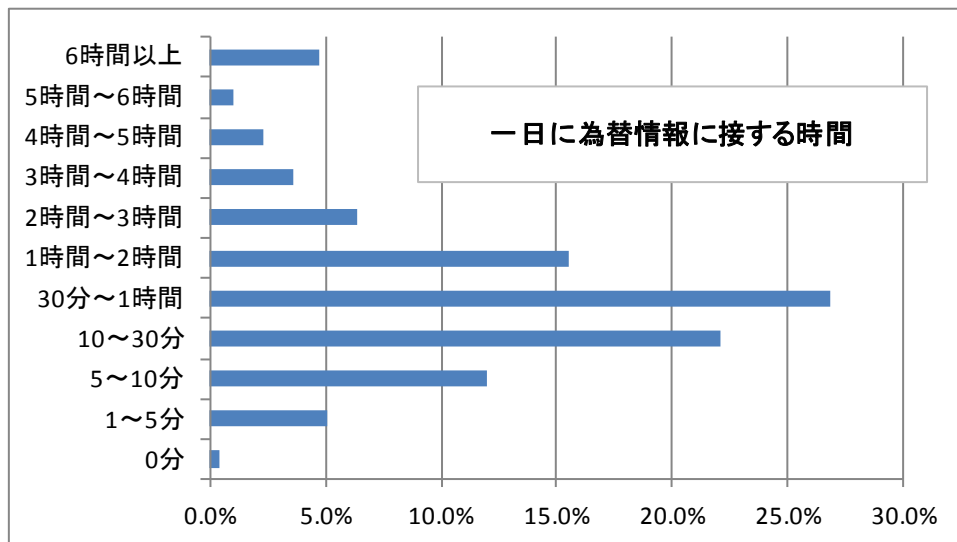


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

**問10: 一日当たり、為替に関する情報に接している時間はどれくらいですか？
また主にチェックしている情報は何でしょうか。(為替レート、為替チャート、
外国為替に関するニュース、ブログ等)**

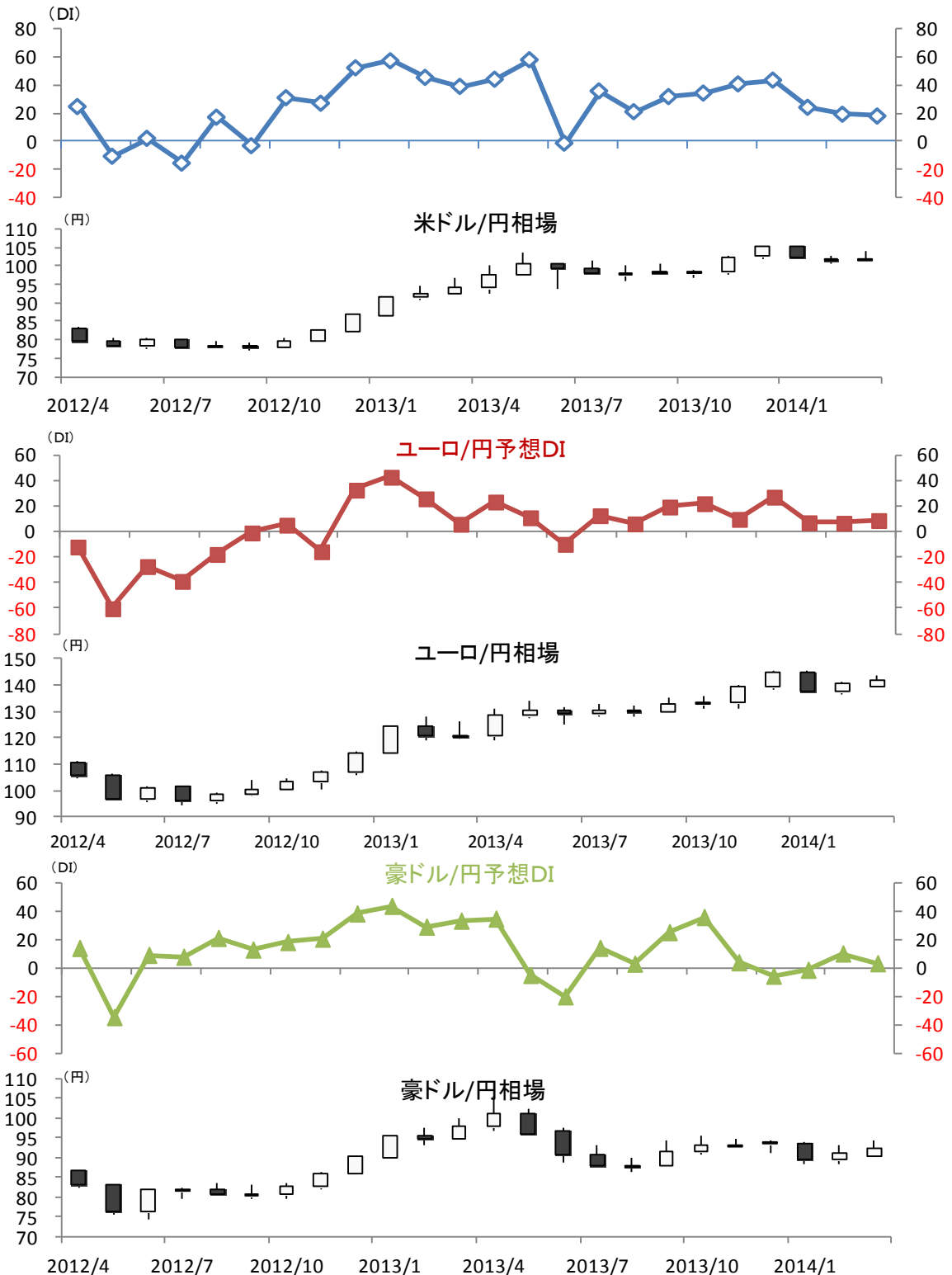
今月のもうひとつの特別質問項目として「一日当たり、為替に関する情報に接している時間はどれくらいですか？また主にチェックしている情報は何でしょうか？」と尋ねたところ、時間については、「30分～1時間」と答えた割合が26.8%と最も多く、「10～30分(22.1%)」、「1時間～2時間(15.5%)」、「5～10分(12.0%)」と続いた。比較的短い時間に回答が集まっており、FX投資家層は短時間に集中して情報を集める傾向があるようだ。チェックしている情報に関しては、10分以下の層については、ほとんど「為替レートとチャートを参考にしている」模様だが、10分を超えると、為替レートやチャートの他、経済指標やニュースを確認している層が圧倒的に増えていた。さらに30分を超えると、日経新聞やブログなど、リアルタイムでないニュースや記事も合わせて参考にする層が増えた。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第58回目となりました。調査開始から5年近くが経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル/円			ユーロ/円			豪ドル/円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2012年	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.1	38.7	39.2	-0.5	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.4	24.1	18.3
	11月	48.5	21.5	27.0	27.9	43.1	-15.2	44.0	23.3	20.7
	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com